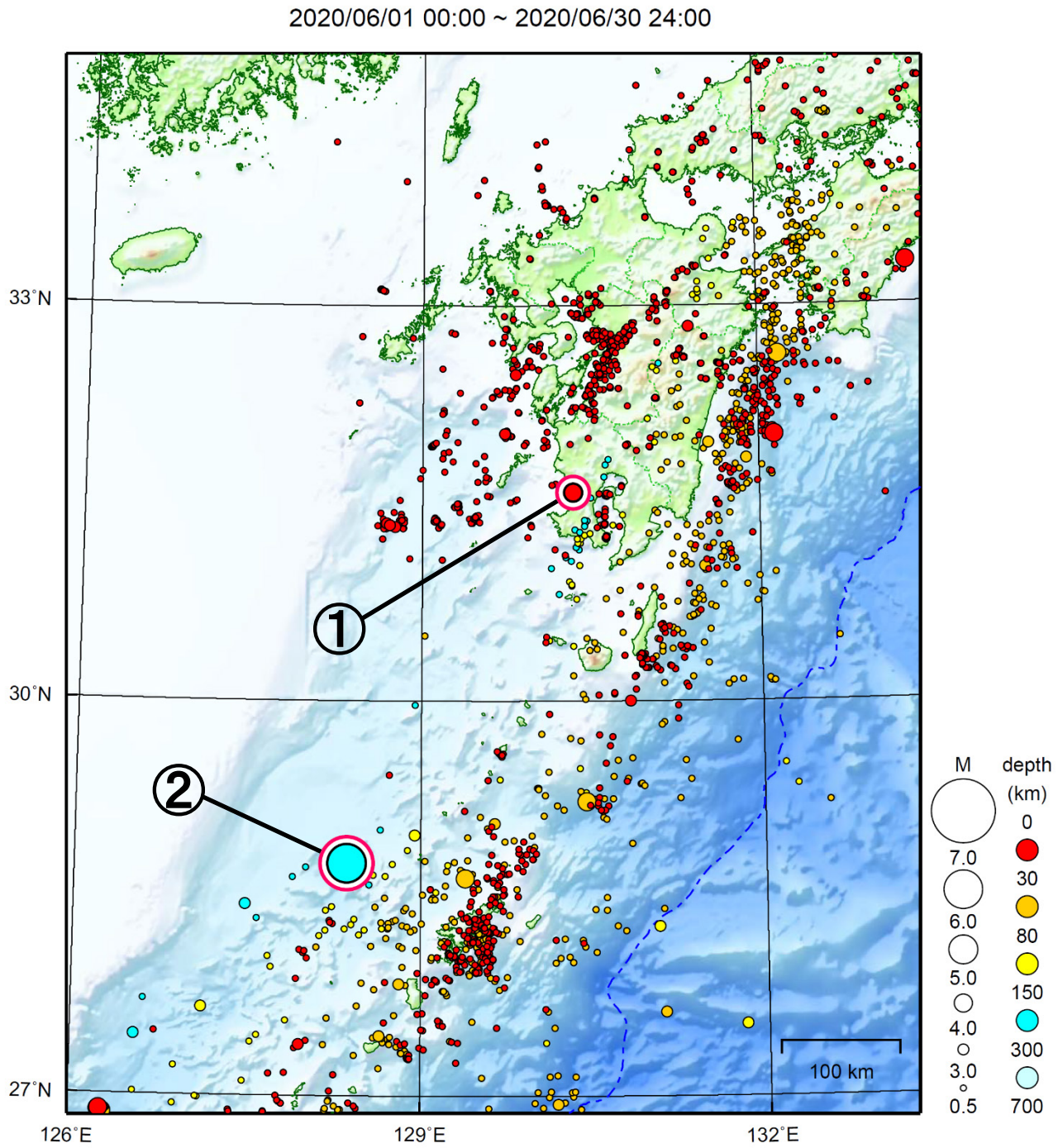
九州地方



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOPO2v2 を使用

① ６月１日に薩摩半島西方沖で M4.3 の地震（最大震度４）が発生した。

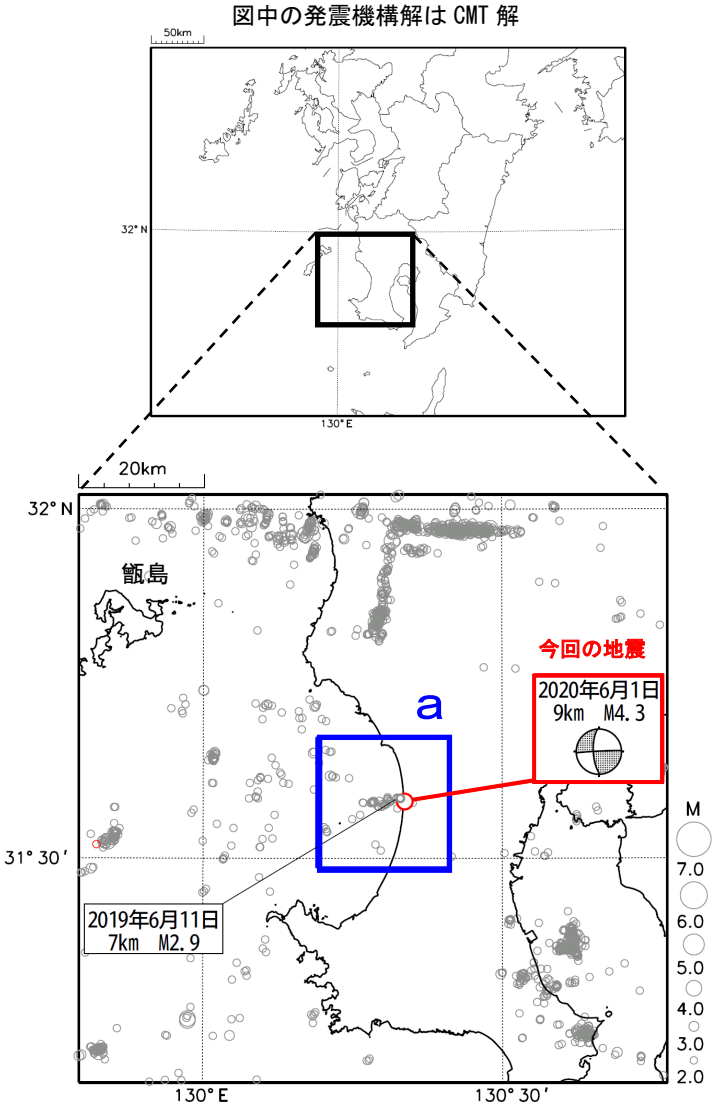
② ６月 14 日に奄美大島北西沖で M6.3 の地震（最大震度４）が発生した。

［上述の地震は M6.0 以上または最大震度４以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度３以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度３以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。］

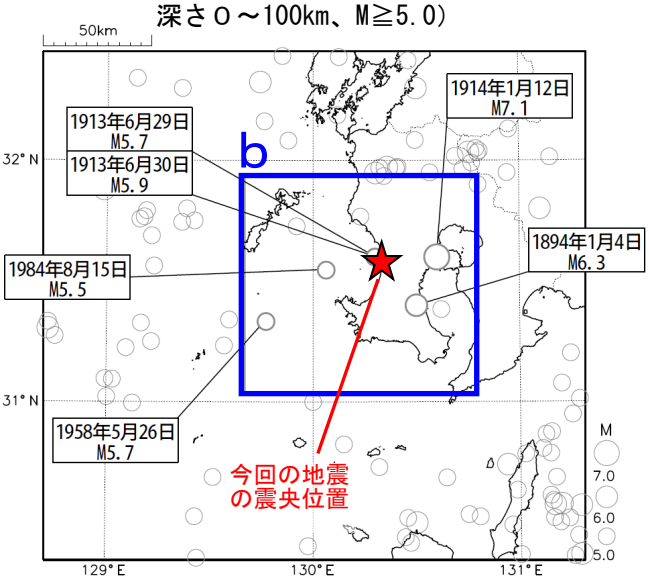
気象庁・文部科学省

６月１日　薩摩半島西方沖の地震

震央分布図
（1997 年 10 月 1 日～2020 年６月 30 日、
深さ０～20km、M≧2.0）
2020 年６月の地震を赤く表示、
図中の発震機構解は CMT 解



震央分布図
（1885 年１月１日～2020 年６月 30 日、
深さ０～100km、M≧5.0）

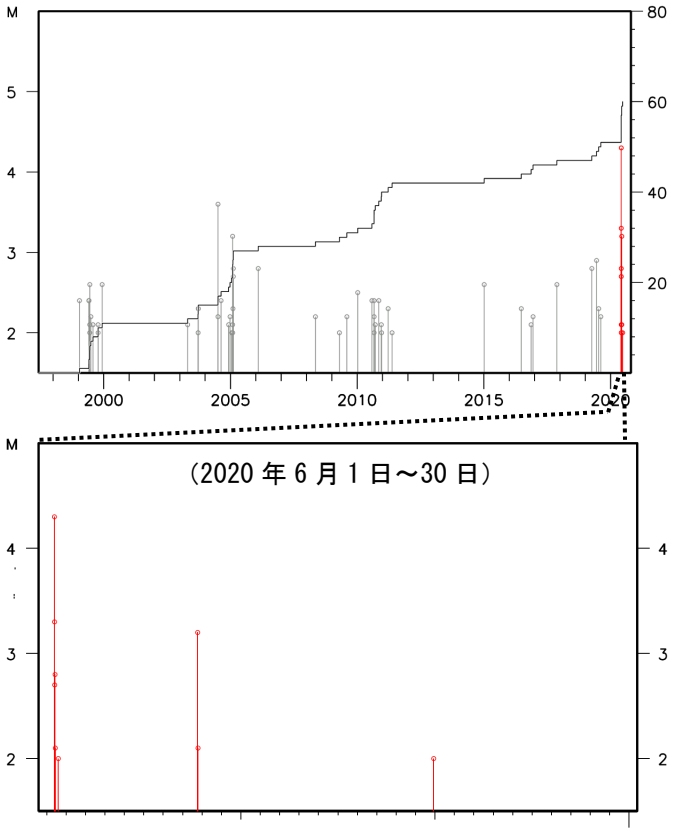


2020年６月１日09時33分に薩摩半島西方沖の深さ９kmでM4.3の地震（最大震度４）が発生した。この地震は地殻内で発生した。発震機構（CMT解）は北西－南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層型である。

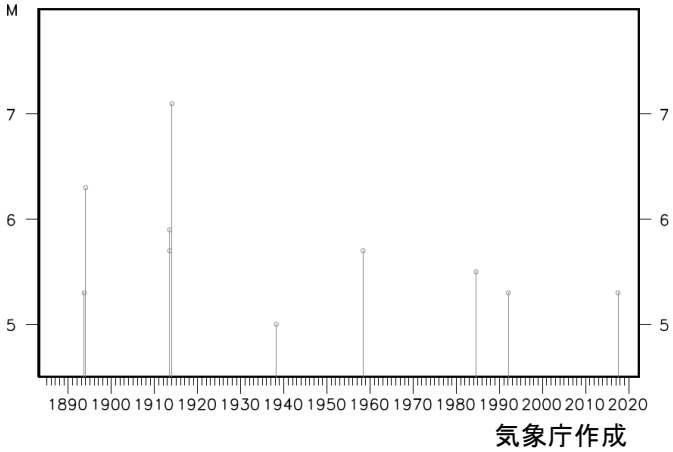
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域ａ）では、M4.0以上の地震は発生していなかった。近年では2019年６月11日にM2.9の地震（最大震度２）が発生している。

1885年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域ｂ）ではM5.5以上の地震が６回発生している。1913年６月29日にはM5.7の地震が発生し、がけ崩れの被害が生じた。また、翌30日にはM5.9の地震が発生し、山崩れ、家屋倒潰１などの被害が生じた（被害はいずれも「日本被害地震総覧」による）。

領域ａ内のＭ－Ｔ図及び回数積算図

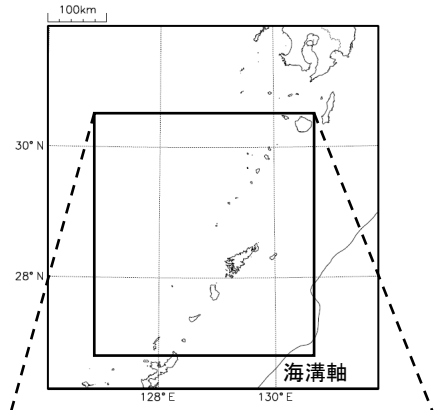


領域ｂ内のＭ－Ｔ図

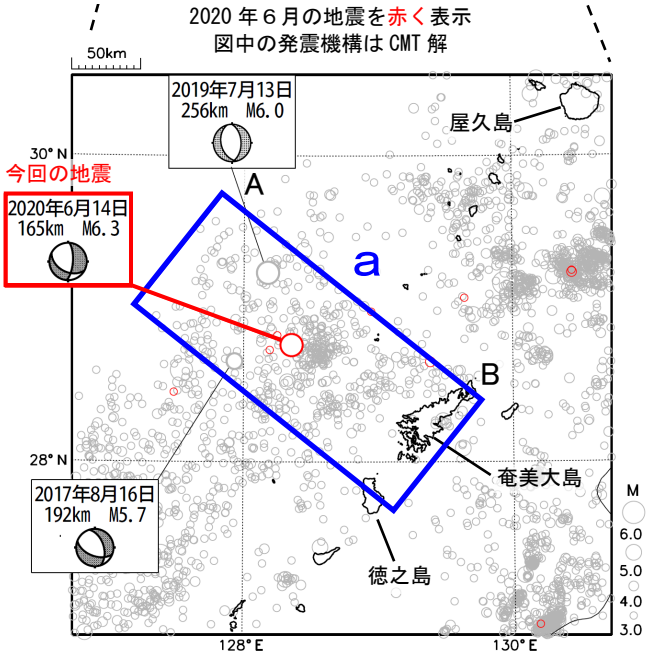


気象庁作成

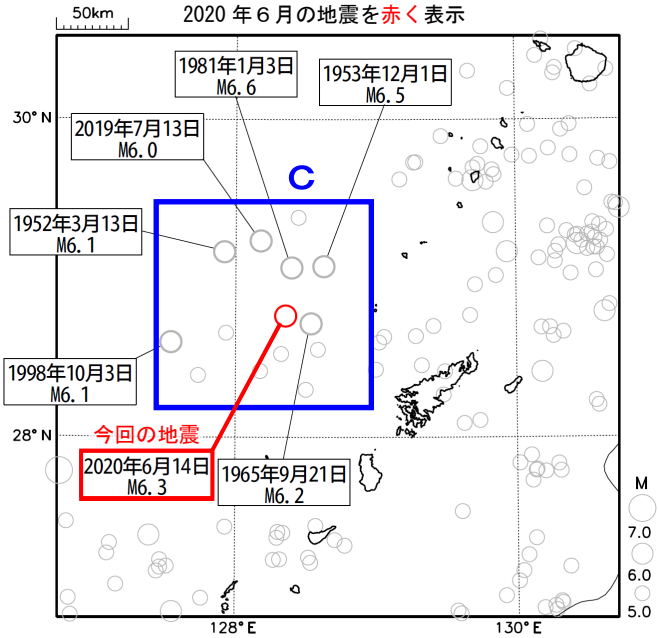
６月 14 日　奄美大島北西沖の地震



震央分布図
（1997 年 10 月 1 日～2020 年６月 30 日
深さ 50～300km、M≧3.0）
2020 年６月の地震を赤く表示
図中の発震機構は CMT 解



震央分布図
（1919 年 1 月 1 日～2020 年６月 30 日、
深さ 50～300km、M≧5.0）
2020 年６月の地震を赤く表示

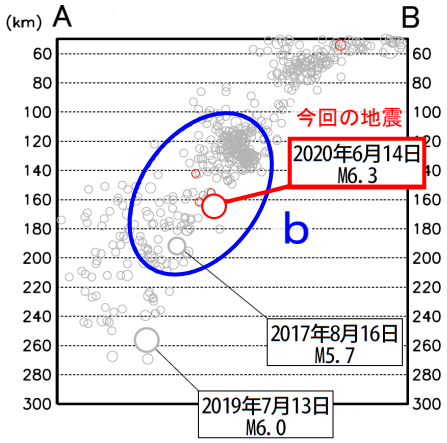


2020年６月14日00時51分に奄美大島北西沖の深さ165kmでM6.3の地震（最大震度４）が発生した。この地震はフィリピン海プレート内部で発生した。発震機構（CMT解）はフィリピン海プレートが沈み込む方向に圧力軸を持つ型である。

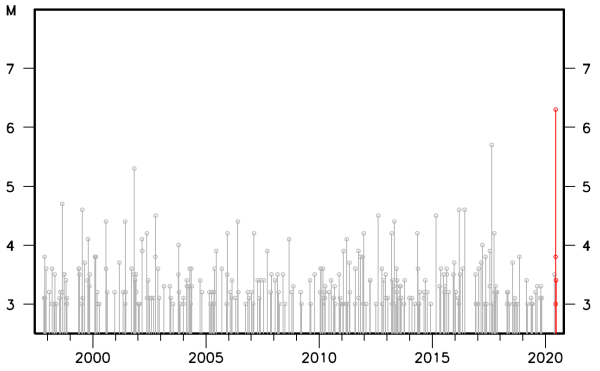
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域ｂ）では、2017年８月16日にM5.7の地震（最大震度２）が発生した。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域ｃ）では、M6.0以上の地震が６回発生している。1981年１月３日にはM6.6の地震（最大震度４）が発生した。

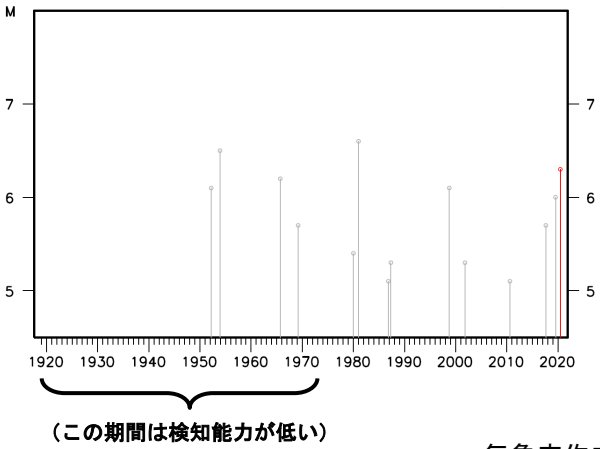
領域ａ内の断面図（Ａ－Ｂ投影）



領域ｂ内のＭ－Ｔ図



領域ｃ内のＭ－Ｔ図



気象庁作成